

中学校

平成 10 年 度

# 教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

平成10年度

教育研究員名簿 (国語)

班	地区名	学校名	氏名
一 班	世田谷 葛飾 八王子 東村山 福生	奥沢中学校 四ツ木中学校 第六中学校 東村山第七中学校 福生第二中学校	◎ 北村康子 中村清忠 吉田稔一 新飯田潤一 小林真弓
二 班	文京 練馬 調布 国分寺 多摩 利島	第一中学校 光が丘第二中学校 神代中学校 第三中学校 鶴牧中学校 利島中学校	○ 本谷千恵子 石坂恵理子 堀江朋子 小澤さきえ 宮崎直子 梅田多津子
三 班	墨田 大田 豊島 足立 江戸川	両国中学校 出雲中学校 駒込中学校 花畑北中学校 松江第六中学校	○ 阿部昭彦 古川博 大河内清明 平塚喜宏 熊谷晴弘

◎ 世話人 ○ 副世話人

担当 教育庁指導部中学校教育指導課指導主事 田中洋一

目次

I	主題設定の理由	1
II	研究の構想	
1	基本的な考え方(仮説)	2
2	研究の方法	3
III	研究の内容	
1	1班	
(1)	ねらい	4
(2)	指導の実際	5
(3)	まとめ	9
2	2班	
(1)	ねらい	10
(2)	指導の実際	11
(3)	まとめ	16
3	3班	
(1)	ねらい	17
(2)	指導の実際	18
(3)	まとめ	23
IV	研究のまとめと今後の課題	24

## I 研究主題設定の理由

国際化、情報化の進展、科学技術の一層の発達などにより、現代社会は新しい技術や知識を活用する時代へと移りつつある。一方、社会が急激に変化するにしたがって、人間関係は希薄になり、それぞれに大切にしたいものが異なるなど、人々の価値観は多様化してきている。

このような状況の中で、社会の変化に主体的に対応し、たくましく生きるためには、知識を活用し、現実の状況とそれを対応させながら、分析・統合・評価を行うなど、考える力をもつことが大切であると考え。なぜなら、コンピューターの情報量ははるかに人のそれをしのいでいる今、知識を大量にもっていることよりも、知識を活用することが求められているからである。

また、社会生活を円滑に営む上でも、豊かな人間関係を築くことが大切であり、そのために、自分の考えをまとめ、相手に正しく伝える力をもつことが求められている。

本研究に先立ち、生徒の実態把握のために授業分析を行った。その結果、「知識は多くもっているが、『なぜ』『どうして』と考えることができない」「根拠に基づいた意見をもてない」「など、思考力に不足するところがあることが分かった。その原因として従来の教育が、考える力を育む上で十分でない面があったことに加えて、幼い頃からの自然体験や社会体験が不足していることも挙げられるであろう。体験を失った子どもは「あんなほど、そうだったのか」とうなずきながら学ぶことよりも、情報を丸のみする傾向にある。

以上のような課題と状況を踏まえ、本部会では「思考力の育成」を研究の中心に位置付けることにした。中学校新学習指導要領が、国語科の目標として「伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力」を養うと示し、思考力の育成を重視していることも受け、「考える」ことに視点を当て、生きて働く力を中学生に身につけさせたいと考えたのである。

また、その思考力を育成する手段として、本研究は表現活動に着目した。なぜなら、テレビゲームなどの一人遊びの流行により、子どもは部屋にとじこもり、友人とふれあう機会が減少しているからである。そのため人に何かを伝える必要もなくなり、自分の考えをもつことも少なくなっている。表現するには、情報を自分の情報処理体制に取り込み、自分なりに整理・統合しなければならない。また、自信をもって自分の考えを表すことは、同時に他人の考えを受けとめることにほかならない。このように表現活動は思考力と深くかかわっている。そして、それは前述したように、豊かな人間関係を築く上でもたいへん重要である。

子どもは自分にかかわる人々や環境との出会いの中で成長する。学習内容を本当の意味で定着させるためにも、表現活動を通じた「思考力の育成」が大切であると考えた。

以上の理由から、本年度の研究主題を「表現活動を通して思考力を高める指導法の工夫」とした。

## Ⅱ 研究の構想

### 1 基本的な考え方

情報が氾濫し、激しく変化する社会に適応するために、自ら学び、自ら考える力をはぐくむ教育の充実が求められている。中央教育審議会第一次答申（平成8年7月）では、「ゆとり」の中で「生きる力」をはぐくむことを重視する基本姿勢が述べられている。さらに、「生きる力」において、「いかに社会が変化しようと、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」を重要な要素の一つとして挙げている。また、教育課程審議会における国語科の改善方針の中でも、「自分の考えをもち、論理的に意見を述べることのできる力」を育成することの必要性が述べられ、思考力・表現力の育成が重要視されている。

思考も表現もすべて言語を媒介としてなされるものである。思考力を高める指導法の工夫についての研究を進めるにあたって、生徒に身につけさせたい思考力の要素として、「情報を正しく理解する力」「得た情報を判断・分析し、選択・比較する力」「根拠に基づいて自分の考えをもち、それを人に伝えるための工夫をする力」「考えをまとめ、深めていく力」等があると考えた。日常生活におけるさまざまな場面において、このような思考力を身につけることは、社会生活を円滑に営む上で不可欠なことである。すなわち豊かな人間性、社会性を育み、生涯を通じてたくましく生きる力を養うことと思考力の育成とは密接なつながりがあると考えられる。

研究を始めるにあたって生徒の実態調査を行ったところ、「課題に対して主体的に取り組む自分の考えを順序立てて組み立て表現することが苦手」「感覚で答えることが多く、根拠に基づいて意見を述べることができない」「他者の意見に安易に流されやすい」「相手の意図を冷静に聞き取り、自分の考えと照らし合わせながらさらに考えを深めることができない」というような傾向があるということがわかった。本研究では、これらの傾向を少しでも改善し、主体的に学習に取り組もうとする姿勢を身につけるために、言語活動の一環である表現活動に着目した。平成10年度第27回全日本中学校国語教育研究協議会においても、「目的や方向に沿って効果的に話したり、聞いたりする能力の育成」「相手や目的に応じて効果的な文章を書くことのできる能力の育成」が重視されており、表現活動のいっそうの充実が強く求められている。

今年度は3班（文学的文章班2班、古典班1班）に分かれ研究を進めた。文学的文章班は班による話し合い活動、古典班は新聞作りをそれぞれ表現の主な手段とし、思考力を高めることをねらいとして、指導法の改善・工夫を行った。その際、思考力を高める指導法の工夫として、以下の点について検証授業の中で実践し再考を重ねた。

- 1 学習活動のねらいを明確にする。
- 2 思考過程を大切にし、思考する時間を十分にとる。
- 3 話し合い活動における指導者の支援の方法を工夫する。
- 4 発表（口頭・記述）の機会を多くし、互いに啓発し合う中で学ぶことの価値に気付かせる。

## 2 研究の方法

研究の方法としては、前述の基本的な考え方に立ち、研究全体の教材を文学的文章とした。また、研究の組織として現代文を二グループ、古典文を一グループと三つのグループ編成とし、それぞれに指導法の工夫・改善を試みることにした。

### 1 班

1班では本研究の研究主題をもとに、「話し合い活動を通して主体的に読みを深める力を育てる」を副主題と設定し、小説を教材として以下のような視点に立ち指導法の工夫を重ねた。

まず、どのように描かれているかという読み取りを表現にそって正確にする。さらに、思考をゆさぶり活性化させる課題を与え、話し合いの形態を工夫し、話す・聞く力をはぐくむようにする。このことで、文学を読む楽しさを大切にしながら、豊かに読みを深め、作品の主題に迫っていく。また、他の考えを聞き、自分の考えと比べ、より深めた上で、個々の多様な読みを認め合っていく。この活動を通して、文学を読む楽しさを味わいながら、相手の考えを的確に理解し、自分の考えを論理的に表現していく力をはぐくむことができるのではないかと考え、研究を進めた。

### 2 班

2班では1班と同様に小説を教材とし、「話し合い活動を通して主体的に読みを深める力を育てる」を副主題として設定した。そして「表現活動」の中から音声言語による話し合い活動、および、文字言語による文章表現活動を取り入れることとした。

話し合い活動では、対話形式、班形式、学級単位など、多様な活動を設定することで、他の人のさまざまなものの見方、考え方を知ると同時に、自らの考えを確認し深めることができると考えた。そして、それが、主体的な読みを身につけさせ、思考力を育成することにつながっていくと考え研究を進めた。

### 3 班

3班では本研究の研究主題をもとに、「新聞作りを通して思考力の育成を図る」を副主題として設定し、以下のような視点に立ち指導法の工夫を重ねた。

とかく知識重視の一斉授業になりがちな古典単元を、新聞作りという方法を取ることで、日本の伝統文化に自主的に触れ「古典に親しむ」態度を育成する授業ができるであろう、という仮説に立ち研究を進めた。

新聞作りには、自分の考えをもち、それを文章にして表現する力が必要である。また、記事を合評し一枚にまとめる過程においての話し合い活動によって個々の思考を高め、自己表現力をつけることができる。このような話し合い活動の繰り返しにより、集団としての思考力も深められる。新聞作りという過程において「表現力」と「思考力」の二つの力を身につけさせることが可能であろう。また、新聞のもつ多様性と発展性は子どもが本来もっている想像力を高めるものであると考え、研究を進めた。

### Ⅲ 研究の内容

#### 1 1班

##### (1) ねらい

1班では、表現活動を通して思考力が高まるような文学的文章の教材を選択し、話し合い活動を通して主体的に読みを深める力を養う指導法を工夫した。その際、文学的文章を通して思考力を培うために、いかにどのように描かれているかの読み取りをすることにより主題に迫り、その過程の中で豊かに読みを深める力を養おうと試みた。そのために、明確な根拠に基づく話し合い活動を取り入れ、主体的、積極的な学習活動を展開することによって、確かな話す力、聞く力が培えるのではないかと考えた。また、話し合いなど学習内容の交流によって読解力を高めようとする場合、何のために話し合いをするのか、目的を明確にした上で、どのようなことについて、どのような根拠で考えたのかを聞き手に理解できるように話す。聞き手も自分の考えとどこがどのように同じであったり、違っていたりするのかを明確にとらえながら聞く。さらに相手の考えとの重なりやずれについて、自分なりの根拠をもとに同意したり、質問したりする。このような対話の一連の流れを生徒が十分理解し技能的にも習得していくことが大切であると考えた。

この研究にとりかかった当初の主題設定のための授業分析から

- ・根拠をもって発言することが苦手で、フィーリングで答えてしまう生徒が多い。
- ・すぐに答えを求めてしまい、じっくり時間をかけ、幅広い考え方ができる生徒が少ない。
- ・生徒がお互い考えを述べ合い、それについての意見交換等、生徒が主体となった活発な学習活動が見られない。

などの問題点が挙げられた。これらを解決するためには、生徒同士が自らの考えを話し合い、深め合う活動が不可欠であると考え、以下を指導上の留意点とした。

- ① 書く作業や話し合い活動の機会を多く設定する。
- ② 「どの表現に着目するか」→「表現されたものをどうとらえるか」→「どう考えて表現するか」の過程を大切にする。
- ③ 思考にゆさぶりをかける発問の仕方を工夫する。
- ④ 学習プリントを工夫する。(物語の展開を押さえる・話し合いの記録を取る・考えを深める材料とする。)
- ⑤ 評価の観点を明らかにし、その活動ごとの評価を行う。
- ⑥ 話し合いの形態を工夫し、思考を活性化させる手だてとする。

研究の副テーマにもなっている「話し合い活動」については、パネルディスカッション形式の話し合い、班でのバズセッションを設定したが、話し合い活動を活発にするか否かの大きな鍵は、話し合いの話題の設定の仕方と意欲づけにある。話題は、できれば二つ以上の立場からの論が両者ともに成り立つものがよいだろうとし、テーマの設定についてはかなり工夫しなければならないと考えた。これらの話し合い活動を取り入れることによって、これからの時代に必要な情報収集能力、論理的思考力、討論する力などを育成することができるのではないか。また、21世紀に向けて情報メディアは今後益々進化し、我々の意思伝達や情報の模索は、全地球規模になることは必然である。そうした環境の中で生きて働く力の基礎、基本を身につけさせたいと考えた。

## (2) 指導の実際

### ① 【研究主題との関連】

本研究においては、以下の文章表現活動と音声表現活動を有機的に関連させていく中で、論理的思考力を高め、主体的に読みを深められるように指導を工夫した。特に音声表現活動においては、話し合い活動を取り入れることにより、準備段階でまとめた自分の意見を、他者の意見と比較することを通して、さらに深めていけるよう話し合いの形態を工夫した。なお、いずれの表現活動においても、つねに自分の意見の根拠を明示させて、論点からずれないようにし、思考の深まりを確認できるよう学習プリントに工夫を加えた。

#### ア 文章表現活動

- ・自分の読みとりに基づいて考えや感想をまとめ、文章表現活動の導入にする。
- ・学習プリントに記入することを通して、小説の展開を押さえ、基本的な読み取り作業をし、考えを深める材料とする。
- ・課題に取り組む際に、文章表現することによって自分の考えや立場の根拠を明らかにして、考えをまとめる手だてとする。また、簡単なメモをとることによって自分と他者の考え方を比べながら、自分の考えを深めることに役立つ。
- ・読み取ったこと、話し合ったことに基づいて、主人公の今後の生き方を考え、心内文（「おれは～」で書き始める）を書くことによって、自分の考えをまとめる。

#### イ 音声表現活動

- ・主人公の心情の動きを理解しながら、朗読を工夫する。
- ・「表現」などの根拠に基づいて、自分の考えや意見を発表できる力を身につける。
- ・話し合い活動を通して、自分の意見と他人の意見を聞き比べ、相手の意見から学んだことを生かし、自分の意見をより深められるようにする。

### ② 【教材】『夏の葬列』山川方夫（中学国語 二年 教育出版）

### ③ 【教材観】

疎開児童であった主人公「ぼく」は、決死の覚悟で助けにきてくれたヒロ子さんを、艦載機の銃撃のもとにつき飛ばしてしまう。殺人を犯したと確信する主人公は、後悔の十数年を経て、その記憶を「過去の中に封印し」「身を軽くするために」再びこの地を訪れる。しかし、そこで遭遇したものは、偶然の皮肉か、一人娘を亡くして発狂し、自殺したヒロ子さんの母親の葬列だった。「二つの死」が現実となった今、主人公は生涯その心の重荷を背負って生きていくことを決意する。

罪の意識をもって生きてきた主人公に対して生徒は容易に感情移入できるだろう。主人公への共感が勝るか反感が強く残るかは、読者である生徒の経験や「読み」などによって異なってくる。初発の感想をもとに話し合い、他者の意見を参考にしながら自分の「読み」を深めていくのに適した作品であると考えられる。

### ④ 【指導目標】

ア 作品の展開に注意して読み、主人公の心の動きをとらえさせる。

イ 方向性をもった話し合い活動をさせることによって、心の傷を背負って生きる主人公の心情の理解を深めさせる。

ウ 話し合いの中で根拠を明らかにして考えをまとめさせるようにし、他の人の考えと自分の考えを比べながら主人公のこれからの生き方を見つめさせる。

⑤ 【指導計画】（7時間扱い）

1 次	作品の内容をつかむ（3時間）	
	第1時	— 範読を聞き作品の構成をつかむ。わからない語句や疑問に思ったところも含めて、初発の感想を書く。⇒プリント1
	第2時	— 語句の意味を確認し、作品の展開を理解し、主人公の心情の移り変わりとらえる。⇒プリント2
	第3時	— 第2時の指導内容の続きを行う。
2 次	話し合い活動を準備し、行う（3時間）	
	第4時	— 班を編成し、次の課題に取り組む。 課題「再びこの町を訪れるまでの十数年間、彼はどういう思いであったか。」 生徒の一次感想文をもとにすると、課題2に対する意見は複数出る。それを利用して同じ意見をもつ者同士で班を作り、班内でお互いの意見を発表して確認し合う。意見の違いがあれば他班へ移動する。⇒プリント3
	第5時	— 前時の課題について班の中で、話し合いを深め、根拠を明確にしなが、自分たちの班の意見をまとめる。他の班との違いや独自性を主張できるように工夫を加えて、次時の発表のための準備をする。⇒プリント3
	第6時	— （本時）自分の班と他の班の意見を交換して、班同士で質問や意見を出し合い、自分の意見と他の人の意見との共通点、相違点を明らかにしながら主人公の心情を深く理解する。⇒プリント4
3 次	学習のまとめをする（1時間）	
	第7時	— 今後の主人公の生き方について「おれは～」で書き始める心内文で表現する。それによって自分の考えをまとめ、主人公の生き方に対する自分なりの意見をもつようにする。⇒プリント5

⑥ 【工夫、修正、改善点】

ア 根拠に基づいて話し合わせることに重点を置いたが、ヒロ子さんが死んだことを「殺人」とみなすかどうかという点だけに論議が集中しないようにする。そのためには広く作品全体から根拠をさがし出せるように表現の具体例を示すと生徒も理解しやすい。

イ 第6時では、話し合いの進み具合に応じて、主人公が苦しみ続けてきた理由について生徒の一次感想文や教師のいわゆる「読み」を提示する。これによって話し合いが活発になり、話題がそれたりするのを防ぐことができる。



	学 習 内 容	学 習 活 動	評 価 の 観 点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習目標を確認する。</li> <li>・話し合い活動の目的と方法を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主人公の心情、今までの生き方について深く理解するための話し合い活動であることを確認する。</li> <li>・教師の説明を聞き、話し合い活動の手順を理解する。</li> </ul>	
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い活動に取り組む。</li> <li>①前時の課題（右◎）について自分たちの班で話し合っ出された意見を、班長が代表して発表する。</li> <li>②他の班に対して意見（質問）を発表する。</li> <li>③自分たちの班に対する意見（質問）の回答を考える。</li> <li>④班長は自分たちの班への意見（質問）に対する回答を行う。</li> <li>⑤簡単にまとめの説明をする。</li> </ul>	<p>前時までに各班で話し合っまとめた意見とその根拠を出し合う。</p> <p>他の班の考え方を知る。</p> <p>◎再びこの町を訪れるまでの十数年間、 <u>彼はどういう思いであったか。</u></p> <p>他の班の生徒は聞いてメモを取り、最後に他の班に対する意見（質問）をまとめる。</p> <p>□プリント4（個人の作業）</p> <p>他の班の考え方を確認する。</p> <p>※班内で質問を一つにまとめることはしない。あくまでも個人的に意見（質問）を考える。また、話し合いの補助資料用に一次感想のプリントを用意しておく。</p> <p>個人的に回答を記入したものを班内で発表して、互いの共通点と相違点を確認しながら班の回答（意見）をまとめ上げていく。</p> <p>各班の回答の後に、意見・質問があれば質疑応答をして、お互いの意見や考え方を理解するように努める。□プリント4</p> <p>教師の側から、たとえば次の観点で補足説明をし、話し合いをまとめる。</p> <p>□主人公が「人間的な弱さ」と「良心」の両面をもつゆえに苦しんできたこと。</p>	<p>発言の根拠が本文の「表現」に基づいているか。</p> <p>それぞれの班の意見を理解できているか。</p> <p>他の意見から学んだことを生かし、自分の考えを深めることができたか。</p>
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以上の活動を通して自分の考えを深められたかどうかを確認する。次時の予告。</li> </ul>	<p>プリント4に、自分の意見に変化したところがあるかどうか記入し、今回の話し合いを通して、考えか深まったかどうか確認する。次時の学習に関係のあることを伝える。</p>	



### (3) まとめ

1班では、研究開始当初の授業分析から得た現在の生徒に多く見られる問題点を解決し、本研究のねらいに迫るべく、検証授業を繰り返しながら改善を加えてきた。学習プリントを利用した文章表現活動とともに、明確な目的意識・根拠に基づく様々な形態の話し合い活動や朗読といった音声表現活動を有機的に関連させて行うことにより、論理的な思考力を高め、主体的に読みを深める力を培うことを試みてきた。以下、その成果をまとめてみる。

#### ① 考察

##### ア 文章表現活動

学習プリントへの記入は、作品の内容の把握・整理に有効であった。また、話し合いの準備段階として、文章表現することにより自分の考えや立場の根拠を明らかにして考えをまとめる手だてとしたことは、主体的な読みとり、話し合い活動への意欲的な参加への土台となった。

##### イ 音声表現活動

根拠に基づいた話し合い活動をさせることによって、筋道を立てて発表させることができた。また、話し合い活動において、以下のような条件を設定したことが活発な活動へとつながり、思考力を高めるために有効であった。

◎作品を丸ごと読んで、考えることのできる（考えを深められる）テーマをもつ。

◎子どもたちが、そのテーマについて、真剣に考える場面をつくる。

- ・“夏の葬列”には、教材そのものに衝撃性があり、子どもたちが興味関心を抱きやすいものであったこと。
- ・自分の体験に即しながら、一人一人が自分なりの考えをもつことができたこと。
- ・思考のパターンがひとつにならないように話し合いの方法を変えたこと。
- ・生活班によらず、班編成に工夫を加えたこと。
- ・どうやって伝えたらいいかという手だてについてマニュアルがあったこと。

#### ② 今後の課題

ア パネルディスカッション形式における話し合いの論点が、こちらが期待するものとは違った点に集中してしまうことがないように、準備段階において用意する発問は慎重に選ぶ必要がある。

イ 話し合いを進める上で中心となるリーダーの育成及び、話し合いの系列を日常の中で計画的に取り組んでいくことが大切である。

ウ 従来は、説明的文章において、根拠に基づいて自分の考えをまとめたり、発表したりすることが多かったが、今回の研究では、文学的文章においても同様な実践を行い、有効であった。今後も多様な場面での学習活動を試みていきたい。

## 2 2班

### (1) ねらい

2班では、1班同様表現活動を通して思考力を高める上で、その目標に向け、より適していると思われる教材を選択し、話し合い活動を通して主体的に読みを深める力を育てる指導法を工夫した。主体的に読みを深める力が、思考力を高めることにつながると考えたからである。

まず、生徒が興味をもって取り組むことのできる教材、そこに生徒自らが解き明かしてみたいと思う課題や要素を含む教材を選択することからとりかかった。優れた表現に裏打ちされた文学的文章は、その多くが生徒の心をとらえ、学ぶ意欲を喚起してくれるものだが、その中でも特に、生徒自身が身近に感じることのできるテーマをもった教材を選ぶよう留意した。興味・関心の高さは、主体的な取り組みへの第一歩と考える。

次に、教材に応じた適切な課題を提示し、どの生徒も自ら課題に取り組むことができるような手だてを考えた。日常の授業を振り返った時、それが一斉授業の場合でも班学習の場合でも、主体的に思考していくことが苦手な生徒もいる。そのような生徒も主体的に取り組めるための明確な課題及び形態を模索した。様々な思考が交錯し合い、深まり合う話し合い活動を展開するためには、一人一人が、段階の違いはあるにせよ、自らの考えをもって、話し合いに参加できることが大切であると考えた。また、教材に応じた適切な課題の提示は、作品を読みとる上での視点を明確にすることでもある。できるだけ、その課題を生徒自身の疑問や感想から引き出せるよう配慮するとともに、読みとりの視点を明らかにすることが主題の把握につながっていくことも実感させたい。

そして、話し合い活動が、生徒相互の思考力の磨かれる場になるためには、その形態を工夫する必要があると考える。発言力・理解力のある、なしに関わらず、どの生徒にも自分の意見を伝えることのできる場になるよう、また、単に意見を伝え、それを聞くことで個々の思考が広がることにとどまらず、さらに思考を深めていくための話し合いとなるよう、話し合いの進め方を十分に指導することが不可欠である。このような観点で話し合い活動を行うためには、次のような条件を整えていく必要がある。

- ・一人一人の声を大切に聞き取ろうとする気持ちを育てていくこと。
- ・人から学ぶには、まず自らの意識を高めておく必要があることを理解させること。
- ・「話し合い」をするには、ルールも必要であることを理解させること。
- ・分かりやすく話すためには、話し合いの場を多くもって練習させること。
- ・話し合いの内容は、誰もが興味をもって話す、聞くことのできる課題を設定すること。

これらの中には、日常生活での経験の積み重ねによって養われていくものもあるが、国語の授業の中で意識的に育成することに取り組んでいきたい。そして、教材の内容に合わせ、段階を設けて繰り返すことにより、話し合いに慣れていくことを目指したい。

以上のように、多様な話し合い活動を通して、自分の意見を持ち、他の人のものの見方、考え方を知る。互いにどうしてそのような意見をもったのか根拠を文章に戻って明確にすることにより、自分の考えをさらに深めていく。こうした活動を通して主体的に読みとる力を養うことは、「国語の力」ととどまらず、様々な場面における様々な課題に的確に対処する力をはぐくむ源になるものと思う。

## (2) 指導の実際

### ① 【研究テーマとの関連】

本研究においては、「表現活動」の中から音声言語による話し合い活動、及び、文字言語による文章表現活動を取り入れることとした。本教材において、生徒自らが考えた学習課題に基づき、話し合い活動を中心に解決を図り、文章表現活動は発展学習の中で扱うこととした。

対話形式、班形式、学級単位など多様な話し合い活動を設定することで、他の人のものの見方、考え方を知ると同時に、自らの考えを確認し、より深めることができる。それを、主体的な読みの力の育成、思考力の高揚につなげたいと考えた。

本教材において、「わたし」と「祖父」のかかわりに焦点をあてて読みを進めることにより、「私」が「祖父」をどのように見ていたかということや、「わたし」の「祖父」への心情の変化について読み深めることができ、それが主題の把握にもつながると考えた。

話し合い活動を通して、生徒一人一人の思考力を高めるためには、他の人がもつ違った視点に触れることで、自らの考えを深める体験が必要である。そのような学習活動を設定し、考えることの大切さ、楽しさに気づき、話し合い活動に意欲的に取り組む姿勢を身につけさせる授業を目指した。

### ② 【教材名】『わたしを作ったもの』 ロバート・ウェストール（国語 二年 光村図書）

### ③ 【教材観】

この作品は、大人になった「わたし」が子ども時代の祖父とのかかわりを回想する形式で書かれている。第1次世界大戦で肉体も精神も傷つきゆがめられている「祖父」を、「わたし」は恐れ嫌っていた。ある時、「わたし」は、「祖父」が大事にしていたがらくたにまつわる話を聞くことで、「祖父の背後にある人生のドラマを知り、初めて心が通いあった喜びを感じる」のである。その時の心の交流が、その後の自分を作るきっかけとなった。

この作品に描かれている時代や場所は、今の日本とは遠く隔たっているが、「わたし」の、「祖父」に対する気持ちや心の交流による変化は、人が人とかかわって生きていくことの大切さや温かさを教えてくれる。

生きるということが、他の人とのかかわり、心のふれあいの中で成り立つということを、学ばせることのできるよい教材であるといえる。

### ④ 【指導目標】

ア 「わたし」と「祖父」とのかかわりを考えることによって、自分と他者とのかかわりを認識し、自分の生き方について考える。

イ 多様な話し合い活動を通して、他の人のものの考え方・見方を知り、自分の考えを深め主体的に読み取る力を養う。

ウ 話し合い活動を通して、自分の考えをより正確に伝えようとする態度や表現力を養う。

### ⑤ 【指導計画】（9時間扱い）

第1時 ◎ 全文範読（テープ使用）。作者、登場人物、時代背景をおさえる。5つのまとめを確認。

◎ 初発の感想と、読み深めたい事柄について、記入させる。[学習プリント①]

- 第2時 ◎ 数人の感想を読み、読み深めたい事柄についてその内容を挙げる。  
 ◎ 第1のまとめから「わたし」と「祖父」のかかわりについて考えさせる。  
 [学習プリント②]
- 課題a** 「わたし」の眼に映った「祖父」の様子（態度や気持ち）「わたし」の「祖父」に対する態度・気持ちが書かれている部分に着目し抜き出させる。
- 課題b** 「わたし」と「祖父」のかかわりがどのようなものか、「わたし」の側から考えさせ、その内容をまとめる。理解しにくいものは、全員で考えさせる。
- ◎ 第2のまとめから、父が子どもころの祖父について考える。[学習プリント③]
- 第3時 ◎ 第2、第3のまとめを班内で分担して読む。2～3人のグループで話し合い、第1のまとめと同様に学習プリント③・④に記入する。  
 ◎ 学習プリントに書いたことを、各自が班内で発表する。  
 ・課題aの項目として適しているか、班内で話し合う。  
 ・課題bのうち、「わたし」と「祖父」のかかわりがどのようなものであるか話し合い、分かるものと分かりにくいものを明確にする。  
 ◎ 課題a・bを短冊に書く。
- 第4時 ◎ 前時の短冊をもとに、班の話し合い内容を発表し、分からなかった内容についての解明と二人のかかわりの理解を深める。
- 第5時 ◎ 第4のまとめを班内で分担して読む。
- 6時 ・課題a・bに加え、c「わたし」の「祖父」への気持ちの変化を考える。  
 [学習プリント⑤]  
 ◎ 次時の発表に向けた準備をする。
- 第7時 ◎ 班の話し合いの内容を発表する。全体で意見交換、および討論を行う。
- 第8時 ◎ 第5のまとめを読み、主題について考える。
- 第9時 ◎ 「人と人のかかわりについて」、具体的な題を与え、作文を書かせる。

⑥ 本時の展開

《第4時》

	学 習 内 容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	本時の学習内容の確認	「わたし」と「祖父」のかかわりについて考える	前時に作成した短冊と学習課題を黒板に掲示しておく。 課題a・bについて、黒板に向かって左に第2のまとめ、右に第3のまとめから抜き出したものをページを追って見やすくはる。

展	<p>班の話し合いの内容を発表する。</p>	<p>1班から順に、書き出した表現を読み、話し合って分かったこと、分からなかったことを発表していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者や板書する者は班の中であらかじめ決めておく。</li> <li>・発表者は前に立ち、声の大きさや速さに気を配る。</li> <li>・発言者カードを参考にする。</li> <li>・大切な語句を指し示したり、書き込む。</li> <li>・班の発表が終わったら、質問がないか聞く。</li> </ul> <p>◎各班の発表の中で、共感できた点や違う点のメモをとり、読み取りを深めていく。</p>	<p>◎発表する人の態度について助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班の考えを分かりやすく話すこと。</li> <li>・まとまっていないときはどこがどのようにまとまっていないか、話すこと。</li> <li>・声の大きさ速さに注意すること。</li> </ul> <p>◎聞く人の態度について助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者の発言を最後まで聞くこと。</li> <li>・発表者の考えの中に、自分と同じ点、異なる点、共感する点を見つけること。</li> </ul> <p>◎一斉授業の形態をとる。</p> <p>◎「それぞれ班であげた表現が、課題aとしてふさわしいものであることの説明をしましょう。そして、二人のかかわりについて、『わたし』の側（思い）から話し合った内容を発表してください。」</p> <p>◎適宜まとめをし、班で話し合う必要のあるものには印をつける。</p> <p>◎聞く側のメモの取り方に気を配る。</p>
開	<p>班で分からないところの話し合いをする。</p> <p>班ごとに発表し、意見交換をする。</p>	<p>◎班に分かれる。</p> <p>◎各班の話し合いから教えられたことはないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・司会者が班員に聞いていく。</li> <li>・考えがまとまるものとまとまらないものとを明らかにしていく。</li> </ul> <p>◎発表者はその場で話し合いの内容を発表していく。</p> <p>◎他の班の意見を聞く。</p>	<p>◎「前回の班の話し合いで分からなかったところを今日の他の班の発表を参考にしながら、もう1度話し合ってみましょう。」</p> <p>◎解決しなければならないところのある班の様子を机間指導し、助言する。</p> <p>◎話し合いの深まりをほめ、努力を認める。</p>

ま と め	本時のまとめと、 学習の感想を書く。  感想を発表する。	◎『ふりかえりシート』にま とめる。 ・各班の考えをうまく伝える ことができましたか。 ・あなたの発言を班員は真剣 に聞いてくれましたか。 ・他の人の考えを聞いて、自 分の考えが深まりましたか。 ・今日の活動でどんなことを 学んだかについて記入する。	◎特に心に残った発表内容など、 具体的な記述をこころがけるよう に助言する。  ◎『ふりかえりシート』を司会者 が提出するよう指示して、集める。
-------------	---------------------------------------	--	---

⑦ 指導方法の工夫

ア 話し合い活動によって何を考えさせるか、という点を明確にする。

- ・課題を明示する。(黒板に掲示や板書する)

イ 発問の工夫。難しい表現はさけ、誰もが身近に考えることができるような、分かりやすい表現を用いる。

- ・短冊、プリント、ワークシートを利用する。

ウ 多様な話し合いの形式をとる。

- ・二人の対話、班、全体など。

⑧ 評価の観点

ア 話し合い活動によって考えが深まり問題が解決したか。

イ 学習プリントの使用によって、考えがまとまり他の班との相違点や共通点に気づくことができたか。







### (3) まとめ

#### ① 考察

本分科会では、小説を教材とし、話し合い活動を通して読みを深めながら、生徒の思考力を高める指導の方法について研究を進めた。4回の検証授業を行いながら、本研究のねらいに迫っていった。ワークシートを利用した小集団での話し合い、全体討議などの音声言語による多様な話し合いを設定し、「思考力」の育成を試みた。そして次のような成果を得た。

##### ア ワークシート

話し合い活動に向けて、個人の読みを確認し、理解を深めるための活動にワークシートを取り入れることで、学習課題に主体的に取り組もうとする姿勢をひき出せた。また、ワークシートに書き込んだ自分の意見をもとに話し合いに参加することは話し合いの活発化につながっていった。

##### イ 多様な話し合い

生徒一人一人が自らの考えをもち話し合いに参加できるように、小集団（生活班）と全体での討議を設定した。小集団の中では、のびのびと意見を言う一方で、班員の意見に耳を傾け、自分の意見を修正する場面も見られた。全体の討議では、発表者カードをもとに班の意見を述べた。黒板に短冊に書いた班の意見をはることで、意見交換や討論に主体的に参加することができた。

#### ② 今後の課題

ア ワークシートに書いたことをもとに、全員が主体的に話し合いに参加するてだてをさらに工夫する必要がある。

イ この作品は教科書では2年の教材として扱われているが、2年生と3年生で検証授業を行った結果、話し合い活動のための教材としては3年生に適していた教材であった。授業の目的に応じた教材分析がいっそう必要である。

### 3 3班

#### (1) ねらい

中学校の古典学習の中心は、「古典に親しむ」こととされている。われわれ3班のメンバーはこれまでの古典の指導法として、本文の現代語訳や文法学習の教師主導的なものと、音読や群読、暗唱、作者や作品のことについて調べたことを発表させる表現活動等を行ってきた。だが、これだけで、生徒に対して十分に古典への興味関心をもたせることができたのであろうかという疑問と不安があった。それは、現代文の作品では、登場人物に感情移入できるまで高まる感動をもったり、説明的文章では筆者の意見をきちんと把握できることが、授業で見られるのに、こと古典では、そこまでに至らないことが多いからである。その原因を考えてみて、「自分なりの素直な解釈や感動がもてていなかったのではないだろうか。」ということにメンバーの意見は集約された。

そこで、積極的に生徒の自由な発想と活発な話し合い活動を取り入れようと考えた。古典作品を使い、自由な発想をもとに自分なりの創作をさせる。その創作文をもとにして、自由な感想や意見を出し合い、話し合い活動をする。これにより生徒は積極的に古典学習の授業に参加するのではないだろうかと予想した。そして、考える場面が自然に生まれ、思考が高まることも十分に期待できるものと思った。

これらのことを総合的に具現化する方法として「班新聞作り」を採用した。「個人新聞」のような単なる発表だけでは、自由な自分なりの表現活動にとどまり、せつかくの教室での授業を活かしきっていない。お互いの発表を興味をもって聞く姿勢、お互いに感想を述べあったり矛盾点を指摘したり改善点などを話す場面があってこそ、思考が深まるものと思われる。

個人で創作したものを新聞風に「記事」とし、お互いに感想や改善点を述べあうことも新聞風に「合評」と定義して「班新聞作り」を行おうと我々は考えた。自ら記事を考えることに関しては、現在の生徒たちは抵抗なく楽しみながら取り組めると予想できた。情報の氾濫する現代の生徒たちの発想は豊富である。古典の世界ならなおさら、自由に想像力を生かして創作できるであろうと考えた。そこに、合評という話し合い活動が加わることによってコミュニケーションが図られ、お互いの思考が高められるであろうと考えた。

新聞作りには文章表現の他に、レイアウト（見出し・イラスト・写真）、構成などいろいろな作業がある。だから、文章を書くことが苦手な生徒も、新聞作りの多様な場面への積極的な参加が可能である。さらに、広告やテレビ欄、スポーツや芸能、社会面や政治・経済、社説やコラム、とありとあらゆるものが、新聞には載っているのだということを理解することで、自由な発想に基づく、色々な意見がでてくるであろうと考えた。これらの過程のすべてが、生徒の考える力を高めていくことにつながっていくものと思われる。

これまで音読による表現活動に終始しがちであった古典学習に、「班新聞作り」と「話し合い活動」を導入することで、思考を高める教育的効果をあげ、それがひいては古典そのものに親しむきっかけになるのではないだろうかと考えた。

(2) 指導の実際

① 【研究主題との関連】

副主題「新聞作りを通して、思考力の育成を図る。」

本研究における「表現活動」は以下の二つとしてとらえた。

ア 文章表現活動

- ・自分の考えに基づいて個々に班新聞のための記事を作成する。
- ・他人の書いた記事に対しての評価を合評カードに記入する。
- ・できあがった各班の新聞に対して、自分の意見を持ち、それを評価カードに記入する。

イ 音声表現活動

- ・各班で個々に作った記事を発表し合う。
- ・合評カードを用いて、批評のための話し合いをする。
- ・個々の記事をもとに、班で一枚の新聞を作るための話し合いをする。

以上の表現活動を通じた「思考力を高める」学習として以下の指導案を設定する。

② 【教材】 『竹取物語』 (中学国語 一年 教育出版)

③ 【教材観】

内容的には伝奇的要素の強い物語で、その根底には神仙思想や仏教思想の影響も色濃く見えている。しかし、ストーリーの中核はあくまでもかぐや姫が人間世界に降りてきて、再び天上世界へ戻っていくというものである。中学生なら一度は絵本などで目にしたり、聞いたことがある話である。古来人間の有する夢と理想を描き、美への憧れ、永遠なるものへの憧れを優しい文章で仕立てあげ、多くの人々に親しまれてきたこの文章だけに、親しみやすく、古典への入門としては最適の作品と言えよう。

④ 【指導目標】

- ア 古典に親しみ、自分の興味・関心に応じた内容を、文章から読み取る力を養う。
- イ 文章から読み取った内容をもとに、自分の考えをもち表現する力を養う。
- ウ 話し合い活動を通して、他人の考えを理解し、評価・判断する力を養う。
- エ 話し合い活動を通して、自分の考えを深める力を養う。

⑤ 【指導計画】 8時間扱い

作品の内容理解 (3時間)	
1	第1時 授業の流れを説明する。(新聞作りも含めてのワークシートを使用する。) 教材の提示、時代背景などを説明する。 全文を範読する。(歴史的仮名遣いに注意させる。) 登場人物の確認、あらすじを押さえる。

	初発の感想・自分の知っていたことを書かせる。 (ワークシートを使用する。)	
次	第2時 かぐや姫の誕生のいきさつを読み取る。 成長したかぐや姫にまつわるできごとを読み取る。 月の世界から迎えに来た場面を読み取る。 (ワークシートを使用する。)	
	第3時 月の世界から迎えに来た場面を読み取る。(前時の続き) かぐや姫昇天の場面を読み取る。 かぐや姫昇天後の事をまとめる。 次時の予告をする。 (ワークシートを使用する。)	
	新聞記事作り・合評・新聞作成(4時間)	主に身につけさせたい力
2	第4時 生活班を使って新聞を一枚作ることを確認する。 各班の新聞のテーマを「かぐや姫」「帝」「翁媪」から選ばせる。そのテーマで個人の記事を作成させる。その人物になりきって書いても良い。 また「資料集」などの資料を用いても良い。(予告しておき資料を各自で持ってくる。ワークシートを使用する。)	選択 比較 判断 考えをもつ 伝える
	第5時 前回の続きを行う。各班の中で完成した個人の記事を発表し合い、合評カードに記入する。	比較 評価
	第6時 合評カードを用いて、良いところを中心に評価し、話し合う。 これらの記事をもとに班で一枚の新聞を作るにはどうすれば良いか話し合う。 また、一つの班を例としてとりあげ、クラス全体でその記事に対する改善点を話し合う。 (ワークシートを使用する。)	比較 評価 考えをもつ 判断
	第7時 新聞作りのための仕事分担をする。 前回の話し合いの結果をもとに班新聞を作成する。	伝える まとめる
3	新聞発表・クラスによる評価(1時間)	
	第8時 前回作成した新聞をクラス内で発表し、評価カードを用いて評価する。 また、自己評価カードも用意し、新聞を作ることによってどのような点が良かったか悪かったかを考えさせる。	比較 評価 まとめる
次		

⑥ 【評価の観点と指導の工夫】

- ＜観点＞
- ・古典に親しみ、自分の興味・関心に応じた内容を、文章から読みとったか。
  - ・文章から読み取った内容をもとに、自分の考えをもち表現できたか。
  - ・話し合い活動を通して、他人の考えを理解し、評価・判断する力をもてたか。
  - ・話し合い活動を通して、自分の考えや意見を深めることができたか。
- ＜工夫＞
- ・主体的な学習活動を促すワークシートの工夫。
  - ・合評カードにより自分の意見の根拠や感想をまとめさせる工夫。
  - ・自己評価、相互評価の内容が次の学習に生かせる評価カードの工夫。
  - ・話し合い活動が意欲的に行われるための計画的な机間指導の工夫。
  - ・生徒自身が個々の学習段階を理解するために、クリップボードを使っての学習段階表示の工夫。
  - ・一つの記事をクラス全員が見られるための拡大機の利用。

⑦ 【毎次の学習目標および指導展開】

- 《目標》
- ＜1次＞
- ア 本教材の学習目標及び学習の流れを理解する。
  - イ ワークシートを用いて作品の内容を理解する。
- ＜2次＞
- ア 話し合い活動でテーマを選択する。
  - イ 各班のテーマにそって個人で記事を書く。
  - ウ 合評カードを用いて班員の記事を評価する。
  - エ それらの記事を一枚の新聞にまとめるための話し合いをする。
  - オ 新聞を作るための仕事分担をする。
- ＜3次＞
- ア 作成した班新聞をクラス内で発表する。
  - イ 評価カードを用いて新聞を個人評価する。

《展開》

＜2次＞（第6時）

	学 習 内 容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を確認する。</li> <li>・合評について説明。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習を復習し、本時の目標と流れを理解する。</li> <li>・前回記入した合評カードの配布を行う。</li> <li>・合評の仕方を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞作りであることを再確認させる。</li> <li>・自分の意見をまとめさせる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の記事の検討。 （第一段階）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合評カードをもとに個々の記事について合評をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見の根拠を考えさせる。</li> <li>・班長を中心にした話し合いをさせる。</li> <li>・記事を発展させるような発言をさせる。</li> </ul>

展 開	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 個々の記事の選択。 (第二段階)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 班新聞を作るために合評をもとに記事を選択する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の意見の根拠を考えさせる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 個々の記事の検討。 (第三段階)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 誰の記事をもとにどんな形で用いるか話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新聞の様式の再確認。</li> <li>• 班長を中心にした話し合いをさせる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 一つの班の話し合いの状況を全体で話し合う。 (第四段階)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 一つの班の中心となる記事を取りあげ、それをもとにクラス全体でそれに対しての意見を出し合う。 (改善点など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 拡大機などを用いクラス全員が見られるように工夫する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 再び各班での記事の検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• クラス全体での話し合いの結果を用いての話し合いをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 話し合いの方向性に配慮する。</li> </ul>
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本時のまとめ</li> <li>• 話し合いの進捗の確認。</li> <li>• 次時の学習内容の確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 評価カードに自己評価を記入する。</li> <li>• 各班の司会者が各班の進捗状況を報告する。</li> <li>• 次の時間に実際の新聞作成を行うことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 発表の方法や学習活動について評価し、次時への意欲を高める。</li> </ul>

⑧ 【本時の評価（第6時）】

- ア 他の生徒の書いた記事を読み、理解することができたか。
- イ 他の生徒が書いた記事に対して、自分の考えをもつことができたか。
- ウ 司会者を中心にした話し合い活動ができたか。
- エ 各班で作る新聞のイメージを作ることができたか。

(個人記事)

組 番名前

見出し  
**讃岐の造 卯毛周辺嚴重固守**  
 (衝撃) 月の都の者捕獲大作戦  
 はたしてなげ姫はどうなるのか

記事  
 本日、八月十五日近衛中将高野の中心に、讃岐卯毛を取り巻く警護の兵隊達が、なげ姫の月の使の者、を捕えるため身をこめて、土塀に千人、屋根に千人、合計二千人が讃岐卯毛に空いている隙間を、きないほど監視を引き続けている。現在の地点では屋根を警護していた二名〇〇氏と△氏が、転倒し、打ちどころが悪く、たたくたたくたすでに二人の犠牲者を出した。この事件は、はり月の力のせいなのか、〇〇氏の転倒に、た〇〇氏によると、今回の警護は、至初めに兵器が使用され、未知の爆弾が、はたして日本初の月の生物捕獲は成るのか、それともなげ姫喪失といふか、たうで失敗となるのか。数時間後全てが明らかになる。乞う御期待。

組 番名前

見出し  
 新発見!? 竹から生まれた女の子!!

記事  
 昨夜、午後9時半ごろ、竹取の翁と呼ばれる、さぬきのみやつこさん(52)が、いつものように竹を取りにいったこと、ある一つの竹の根元が、きらきらと光っていた。不思議に思い、近寄ってみると、なんと、背丈、約三寸ほどの小さな女の子が、まごとなにかわいらしく、座っていたのである。その後、さぬきのみやつこさんは、その子を家へつれて帰り、子供を授かれ、うれしです。大切に育てます。と、いっている。

合評カード

下の空欄は、他の班員の記事について自分なりに考えるものです。記事についての説明と記事を読んで記入しましょう。  
 \*小さい空欄は○△× 大きい空欄は文章で記入しましょう。

評価の対象	見出し	記事の内容	書き方	誤字・脱字	その他
	質問か、 ○ 聞いている。	量も増らなかつた。 ○ は、キリと要点が書いてある。分かった。	文をもと、 △ ふくまいたほうがいい。	誤字・脱字が、 ○ ない。	イラストがよかったです。
	記事の内容が、 ○ まとまっています。	内容が、 ○ とてもおもしろい。	文の量が、 ○ 長すぎなく調度いい。	読点、 △ がない。	
	物足り、 △ ない。	読み、 ○ やすい。	教科書に、 ○ そって分が、 す。	誤字・脱字が、 ○ ない。	工夫をもと、 したほうがいい。
	落札、 ○ がいい。	自分の、 ○ 意見が書いてある。	うまく、 ○ まとまっています。	「単、 △	落ちて、 ○ いる瞬間の絵を書いたらいい。
	!!や!?! ○ が使われている。	インビエ、 ○ が、 あつて新聞らしい。		誤字・脱字が、 ○ ない。	

☆できるだけ良い点をさがしましょう



### (3) まとめ

3班では、古典教材の授業の中に「班での新聞作り」を取り入れ、個々が記事を作成する文章表現活動、記事についての内容検討のため班で話し合う音声表現活動を行うことにより、「思考力」の育成を図る研究に取り組んだ。そして、5回の検証授業を行いながら、その都度改善を加え、研究のねらいに迫っていった。ここでは、学習活動の過程に従い、その成果をまとめてみる。

#### ① 考察

##### ア 記事作成

新聞作りのための出発点であるとともに、記事を書くことにより、思考力を育成するための場である。生徒は新聞記事を書くということに興味を示し、様々な工夫を凝らしながら主体的に取り組み、内容の充実した記事を書いていた。

##### イ 個々の記事の比較・評価

互いの記事を読み合い、合評カードに評価を記入していくことにより、思考力を育成する場である。生徒は新しい発見に驚きを見せたりしながら他の記事を読み、その記事に対する自分の意見をまとめていた。

##### ウ 話し合い

合評カードを用いて、互いの記事に対して講評し合い、よりよい記事にまとめていく。その過程で自分の意見を表現し、他の人の意見を知ることにより考えを深め、互いの思考力を高めていく、この研究の中心となる場である。生徒は他の考えに真剣に耳を傾けながら、自分と異なる見方や、気がつかなかった見方を知ることができた。

##### エ 新聞作成

話し合いを基に、班で1枚の新聞を作りながら、読み手に分かりやすく伝えるための工夫をすることにより、思考力を高めていく場である。生徒は、いろいろと工夫を凝らしながら、楽しんで新聞作りを行っていた。

##### オ 新聞発表会

班ごとに作成した新聞をクラス全体の前で発表しながら、各班の新聞を比較し、自分の考えをまとめ、意見や感想として表現することにより、思考力を高めていく場である。生徒は、意欲的に他の班の発表を聞きながら、意見を発表し合っていた。古典への興味・関心が深まるとともに、一層の作品理解・友人の理解にもつながった。また、学習の成果を新聞という一つのものとして残すことの素晴らしさを感じた。

#### ② 今後の課題

ア 話し合いを進めていく上で、中心となるリーダーの育成など、生徒全員が意欲的に取り組んでいくために、どのような指導や助言をしていくかについて、さらなる工夫が必要である。

イ 「班での新聞作り」という表現活動を単発的に終わりにすることなく、古典教材の授業のみならず、いろいろな題材に活用しながら、生徒の発達段階に応じて、計画的に3年間の指導計画に位置付けていくことができるように、いっそうの工夫が必要である。

## IV 研究のまとめと今後の課題

本年度は、「表現活動を通して思考力を高める指導法の工夫」という研究主題のもとに「話し合い活動を通して、読みを深め、自己表現力を育てる」ということを主な内容として研究を行った。研究組織として文学的文章班を2班と、古典班の合わせて3つの班を設け、指導法の改善・工夫を試みた。

「思考力」を高める指導法の工夫として、次の項目を検証授業での共通課題とした。

- 1 学習活動を明確にする。
- 2 思考過程を大切にし、思考する時間を十分にとる。
- 3 話し合い活動における指導者の支援の方法を工夫する。
- 4 発表（口頭・記述）の機会を多くし、互いに啓発しあう中で学ぶことの価値に気付かせる。

1班（文学的文章班）は、文学教材において話し合い活動を多く取り入れ、主体的に読みを深める研究を進め、次のような成果がみられた。文学を読む楽しさを味わいながらも、より多くの表現に気づき、根拠を挙げて考えをまとめること、話し合い活動の中で、他の考えを理解し、考えを深め、多様な読みを認め合うことは、主体的に文学教材の読みを深めることにつながった。また、授業に意欲的に取り組む姿勢を作ることや、思考力を高めるのに有効であった。

2班（文学的文章班）は、文学教材を読み、多様な話し合い活動を通して他の人の考えを知るという過程を通して、次のような成果を得ることができた。一人一人に関心・意欲の高まりがみられた。また、自分の考えをより正確に伝えようとする態度や表現力が養われた。さらに、課題を明確にすることで、作品の理解が深まり、話し合いが活発になった。

3班（古典班）は、古典を読み、読み取った内容を新聞形式で表現するという学習活動を考えた。その活動の過程において各自の記事をもちより、さらに質の高い一つの新聞にまとめていくという話し合い活動を通し思考力の育成に努めた。その結果、主体的に取り組み、他の人の意見を真剣に聞き学び合う姿がみられ個人の思考力を高めていくことにつながった。

これらの研究の結果、表現活動（文章・音声活動）を授業に多く取り入れることで生徒の主体性を引き出し授業に取り組む意識を高め、さらに、活動の目標・方法を明確にして学び方を学ばせる中で「思考力を高め」ていくことができると言えるのではないだろうか。

今後の課題としては、次のようなことが挙げられる。

- ・生徒の表現活動の場を増やすには、指導を計画的にして時間を生み出すようにしたい。
- ・学び合う環境、お互いを認め合う人間関係を作るには、話し合い活動を継続的に段階を踏まえて行いたい。
- ・生徒の授業に取り組む意識を高めるために、学ぶ意義や必要性のある話題（教材）を選び、生徒の考えを授業に積極的に取り入れ、発問を吟味していくとともに、お互いに評価し合うよさに気付くような指導についていっそう工夫していきたい。